

牛久：学校周辺に見る自然

第46号 ひたち野うしく小

2020年12月2日発行

＜ 秋のみずべ公園 ～⑤トンボのなかま ＞

ひたち野うしく小4年生と歩いた秋のみずべ公園、今回はトンボのなかまです。

トンボのなかまでは、シオカラトンボやギンヤンマなどのように幼虫で冬を越すもの、アキアカネやオオアオイトトンボなど卵で冬を越すもの、そしてホソミオツネトンボのように少ないが成虫で冬を越すものがあります。



今回は、アオイトトンボとアキアカネが見つかりました。秋遅くに見られるトンボは卵で冬を越すものが多いようで、アオイトトンボもそうです。写真のものは複眼が青く、胸に白い粉のようなものがあってオスのようにも見えますが、よく見ると腹の端に産卵管があるのでメスです（雄型メスといえます）。

卵で越冬するアオイトトンボの雄型メス。



アキアカネのメス（左）とオス（オス）。

赤トンボのなかまも卵で越冬するものが多く、今回見つけたアキアカネもそうです。ナツアカネと似ていますが、胸の黒い線で見分けられます。また、ナツアカネのオスはアキアカネと違い、成熟すると顔までまっ赤になります。産卵もナツアカネは空中から卵をばらまきますが、アキアカネでは腹の端を水面や泥に打ちつけて産みます。そして一番大きな違いはアキアカネは旅をするトンボで、梅雨のころ平地の田んぼなどで羽化すると、まもなく高い山へと移動していき夏の盛りには平地から姿を消します。そして秋になると成熟が進んで山を降り繁殖しますが、そのまま山に残るものもいるそうです。最近では少なくなっているといわれ、秋に平地にもどってくるのも元いたところにもどるのか、別の平地に移動するのかなど分かってないことも多いそうです。牛久市周辺ではまだふつうに見られますが、気がついたらいなくなっていたなんて事がないようにしたいですね。 【理科支援員：宮内】